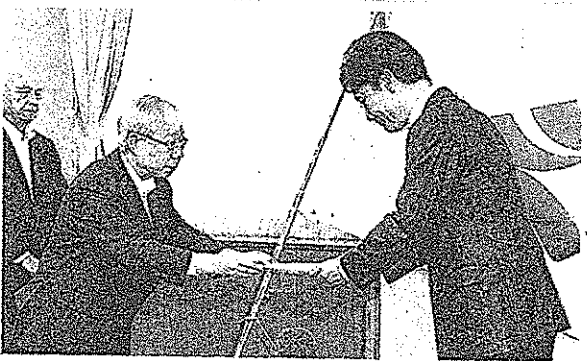


原発 即時停止に応じず

川内 九電が鹿児島知事に回答

九州電力の瓜生道明社長は五日、鹿児島県庁で三反園訓知事と会い、要請を受けた川内原発（薩摩川内市）の即時一時停止に応じないとする回答書を手渡した。十月以降の定期検査で原子炉容器の安全確認など県の要請を反映した「特別点検」を実施するとしている。三反園知事は「この回答は極めて遺憾だ」と強調。今週中に再度、一時停止を要請する可能性がある。

九電の瓜生社長は一時停止に応じない理由について記者団に「既に熊本地震を受けて点検を行い、安全を



鹿児島県の三反園訓知事（左）と川内原発の即時一時停止に応じないとする回答文書を手渡す九州電力の瓜生道明社長（右）五日午前、鹿児島県庁で

確認している」と説明。回答書では原子力規制委員会から停止する必要があるとの見解が示されたことを挙げた。九電はこの日、川内原発1号機の定期検査を十月六日から実施することを規制委に申請した。十二月十一日までの予定で、その間は運転を停止する。

三反園知事は瓜生社長との面会后、「いったん停止して再点検を求めたにもかかわらず、それを定期検査でやるということは遺憾」と不満をあらわにした。一時停止の再要請も含めて

「さらなる安心安全について精査し要請したい」と語った。

九電は特別点検の実施に当たり、四十人程度で構成する「総点検チーム」を設置。原子炉容器内に異物の混入や変形がないかを水中カメラでチェックしたり、配管を支える装置にずれがないかを確認したりする。原発周辺の活断層は既に調査を尽くしているとして、これまでの検証結果を説明する一方、地震観測点を現在の十九カ所から三十カ所程度に増やすとした。